平成22年度第1回豊川市環境審議会議事録

日時 平成22年11月19日(金)

午後1時30分から

場所 豊川市役所協議会室

1 あいさつ

豊川市経済環境部長

2 議題

(1) 豊川市一般廃棄物処理基本計画(案)について

清掃事業課長・環境課長 概要説明

・委員からの意見及び事務局回答

委員

4Rということについて、国の方で3Rということで定義されているが、インパクトを出そうとするなら3R+1Rとしてリユースを加えるのはどうか？

事務局

豊川市環境基本計画で4Rという言葉を使用しているのでそれを引き継いでいきたい。

委員

廃油を分別区分に入れるべきではないか？

事務局

廃油は、拠点回収と協力していただける一部の町内会で回収をしている。将来的には広く市内全域で実施を考えているので、分別区分に入れるが、回収量は非常に少ないので数字も小さくなる。

委員

化粧ビン等のガラスビンの再利用として、道路の舗装に使えないか？

事務局

技術的には可能かもしれない。それらを選別して資源化する場合、量とコストを考え、実施できるかどうか検討する必要がある。

委員

陶器類・ガラス類が多いので使い道を考えれば、最終処分場も助かるのではないか？

事務局

技術的に可能であれば、実施したいと思うが規格の問題もある。JIS工業規格で一律に

製品を作るのを前提とすると簡単ではない。

委員

補足として、現状のままのガラス瓶等是不純物でアルミや鉛を含むので、埋め立てされているのが現状。

委員

万博での水飲み場は壊れた陶器を50%入れて瀬戸市で作っていた。そのような取り組みも必要ではないか？

事務局

一般廃棄物は、市町村で処理をすることが大原則。豊川市には瀬戸市のような施設がないので、瀬戸市に持ち込まなければならない。持ち込むには、瀬戸市と協議をする必要がある。

委員

瀬戸市の方と仕事をした時、中国製の安いものが入っているのでリサイクルしたものは売れないと聞いたことがある。売れるような状態になれば材料として必要となってくると思われる。

委員

在宅医療廃棄物については、拠点回収をしているとのことだが、医師が不足して在宅医療が増えていくことが予想される。市の啓発事業で医療廃棄物に対しての適正な広報とはどのような啓発か？

事務局

医師会の方の感覚とは違うかもしれないが、現状では不法投棄されていることが多い。捨て方がわからない人たちに対しては、ごみカレンダーで周知するといった一般的な手法で啓発する予定。具体的な内容はまだ未定。家庭からでのごみなので、今後医師会の力を借りていきながら、町内会での説明会で啓発を実施していく予定。

委員

高齢者のごみ問題。今の指定ごみ袋は、袋をしぼることが大変。手に持つ部分をつけてしぼりやすくし、容量を小さくするのはどうか？そういう発想は、他の地方自治体でもある。発想の転換をしながら使いやすいように付加価値をつけてみてはどうか？

委員

付加価値をつけるのは良いアイデアと感じている。ごみ有料化とはどのようなものか？

事務局

ごみ袋に実費以外の費用を上乗せして販売したり、粗大ごみの処理に費用をいただいている自治体がある。ごみの処理は、いろいろな方法があり、有料化をしている自治体のごみの量が減っているという状況はあるので、検討したいと考えている。

事務局

豊橋では、ふれあい収集といった制度、また粗大ごみを家の中まで入って収集をするといったサービスもある。福祉関係の部署からも相談がある。すぐ実施は難しいが、高齢化社会なので、検討していく予定。

委員

分別は、プラスチック容器包装と草木を分けて資源とすることが、計画の後期となっている。もう少し前倒しできないか？

事務局

後期としているのは、将来焼却炉の更新を考えている為。そのときに資源化できるものは極力資源化をして、焼却施設規模を小さくしたいと考えている。

委員

プラスチック容器包装は、容器包装協会ルートへ回すということか？

事務局

容器包装協会ルートだと、かなり設備投資が必要となるので、燃料化という方式も検討する必要がある。基本的には容器包装協会ルートを考えているが、民間ルートの可能性も考えている。

委員

分別項目が増えると、当然コストが上がる。コストを下げ、かつ資源を増やすという目標の両立は可能なのか？

事務局

焼却コストが非常に高い溶融炉を使っているが、プラスチック容器と草木を分別することで焼却量が減る。これにより経費削減となり、次に更新する焼却炉能力も下げることができるので、両立は可能と判断している。容器包装リサイクルについては、やらざるを得ないと考えている。

委員

プラスチック容器包装関係で法律に用途は決められているのか？

事務局

グレードによって変わる。品質の良いものであれば、コストは下がり、低いものはコストが上がる。

委員

グレードに係わらずコークスの代わりに燃料とすれば、コークス代は節減できるのではないか？

事務局

溶融炉は構造上最下部に熱源が必要。コークスなら大丈夫だが、プラスチックだと上部

でガス化する。技術的に無理があり、かなり難しい。

委員

廃棄物処理法で医療廃棄物は、排出した医療機関が最終処分まで確認をするよう定められているため、非常に高コストの処理をしている。医療廃棄物を市の廃棄物焼却場にて有料で処理することはできないか？医療機関側も安全・安心で、最終処理を確認できるし、市側も使用料が入るのでメリットがあるという考えはできないか？

事務局

使用料が入るのは、メリットと考えられる。今の現行の法律では可能かもしれないが、地元の承諾が必要。また補助金を受けているため、施設構造を変更するようなことは難しい。

委員

医療機関から出た廃棄物は産業廃棄物であり、しかも感染性のもので特に管理が必要なもの。産業廃棄物処理業者においても特別管理産業廃棄物の許可が必要。収集運搬についても厳重な管理が必要。運搬・処理ともになかなか実態として難しいのが現状。

事務局

現行の焼却施設建設の計画段階で医療廃棄物も含まれていれば可能かもしれないが、医療廃棄物は含まれていないためキャパシティーの問題も含めて難しい。

事務局

廃棄物には、一般廃棄物と産業廃棄物とあり、市の責務として処理しなければならないのは一般廃棄物。これは、その区域内で処理をすることになってる。工場や病院から出るごみは、産業廃棄物。基本的には事業主に処理する責務があると法律で定められている。市としては、一般廃棄物の方を優先させていただきたいし、清掃工場もそのように設計されている。

委員

災害廃棄物は、ごみの性質が違うため震災のものと水害のものと分けるべきではないか？

事務局

貴重な意見として検討してみるが、豊川市の場合、比率で見ると水害は非常に少ない。下水道も災害によりすべてが使えなくなる状況を想定しなければならない。本計画の下に実施計画を作るので、まだこの段階ではアバウトな書き方をさせていただいている。

(2) その他 報告事項

- ・環境部局の組織改変について
- ・廃棄物関連条例の改正について
- ・エコプロジェクト「豊川ごみ減らし隊」の活動について
- ・各種環境施策の進捗状況